



終業式、始業式

2 学期終業式、3 学期始業式の校長先生のお話から（抜粋）

まもなく平成 25 年も終わり、新しい年を迎えます。学校は、不思議なもので 4 月に始まり翌年 3 月に終わります。ですから、1 年間の学校生活の中で、必ず新しい年を迎え、気持ちも新たに、リセットして最後のラストスパートを送ることができます。

人は、何か節目を迎えるとき、誰もが、新たな「志」を立てて、スタートしようとするものです。学校では、学期毎の節目であったり、学年が変わるとき、大きな行事が終わったときなどがそれにあたりますが、新しい年を迎えるときは、一段と「来年は自分にとってどんな 1 年になるのか。自分はどんな生活をしているのだろうか。」と期待や不安も有りながら考えるものです。年の変わり目に、自分の目指す目標への「志」を持った新年を迎えたいものです。3 年生のみなさんは、まさに今、自分の道をつくるための大事な時です。自分の目標や「志」を新たに強く持って進めて下さい。テレビをほとんど見ないで頑張るお正月が、一度はあってもいいのではないのでしょうか。強い志は、自分を奮い立たせてくれるものです。1・2 年生のみなさんも、「来年 1 年間の志や夢」大晦日（おおみそか）の除夜の鐘を聞きながら考えてみたいですね。

みなさんもお正月の楽しみ方はそれぞれあるかと思いますが、私は、正月楽しみにしていたものがあります。それは「大学箱根駅伝です」。今年も多くドラマを見せていただき、感動をもらいました。往路・復路とも終始トップを守りきり、優勝した東洋大学の選手のみなさんも見事でしたが、それ以上に 2 日間の中に、筋書きのない数々のドラマが繰り広げられ心を打たれました。追手町のゴールでのドラマが毎年、心を熱くします。以前、このゴールでのドラマを思い出しました。シード権を争う 10 位に 4 つの大学が争っている中、あと 400 M のところで、ラストスパートをかけた國學院大学！。しかしコースを間違えるアクシデント。目の前にゴールのテープが見えているにもかかわらず、間違えてしまう。ランナーは必死なんですね。その後、3 人の後を追いつながら、自分の学校の名誉とシード権、そして共に苦しい中を走ったメンバーのためにと 100 M 走とも思える速さで走り、10 位に入り込む。まさにラストスパートでした。また、10 位には入れなかった選手が両手を合わせて「みんなすまない！」という姿でゴールした選手もいました。みなさんは、どんな思いをラストスパートに向けて、どんなドラマを創るのでしょうか。

もう一つ、みなさんにお話ししておきたいことがあります。それは「自分に合った道を進もう」ということです。みなさんも、山に登るときには登山道を通りますが、その登山道も一本だけではありませんね。みなさんが 2 年生で登る、「八ヶ岳硫黄岳」も様々な道があります。頂上に到達する道は複数あっても、私たちは意外と気がつかずに一本の道だけに執着しがちです。そしてその道がいいと思いつくと、無理してでもその道を進もうとしてしまう。それにより途中で挫折したり、行き詰まったりしてしまうことも生じます。

正月に妻と一緒に初詣に行きましたが、上田の塩田にある「生島足島神社」と「北向き観音」へ行ってお参りして家に帰ろうとしたときです。私は家までの距離が近い道を帰ろうとしました。しかし妻はその道ではなく、かなり大回りになるけれど、大きな道幅の道を勧めました。「どこの道を通っても帰れるから、安全な道を通って帰ろう。」それが妻の言葉でした。妻は以前、凍結した道で滑って転倒し、両手に荷物を持っていたことから、手をつくことができずに、頭を打つ怪我をしたのです。その経験から遠回りでも自分にとって、家族にとって安全な道を選んだわけです。私の選択基準は「近さ」であり、妻の選択基準は「安全」でした。でも、目標は自宅と同じです。

到達点は同じでも、一人一人に違う道が選べます。この、「一人一人違う」ということをもっと大切に考えてほしいと思います。



12、1月の行事から

生徒会役員選挙～生徒会引継ぎ

12月

11月29日の立会演説会では、どの候補も自分の思うところを具体的に述べてくれました。当日の投票では過半数を得票した候補がいなかったため、12月3日に決選投票を行った結果、生徒会長に油井麻純さん、男子副会長に片川巧雅さん、女子副会長に大畑祐佳さんが選ばれました。いよいよ生徒会も3年生から引き継がれ、2年生が東中学校の顔となって活躍する時を迎えました。



美術部作品展

12月24日～

美術部の皆さんが、白樺祭以外でも自分たちの作品に触れて欲しいということで、美術部作品展を開催しています。校内展示は、今年度初めての試みですが、美術部の皆さんが制作を続けてきた作品を一堂に集め、2階のギャラリーに展示してくれました。デザイン画やアニメーションなど、個性豊かな作品が並べられ、多くの友だちが足を止めて見入っていました。学校にお越しの際は、皆様もぜひ、ご覧ください。

性教育講演会

1月21日 1年

「3人目でも初めてだと思っています。」これは、性教育講演会に来校された妊婦の方が口にされた言葉です。校長室で待っていただくと、お腹の中にいる赤ちゃんが3人目であることがわかり、それが話題になったときに出た言葉です。初めての時の子どもとは違う、慣れのようなものがあるのかと思いがちですが、何人目でも初めてだという言葉は「かけがえのない」ということを実感している姿を示していただいたのだと思います。



音楽コンサート 1月28日

昨年度までは12月に行っていたコンサートですが、今年は都合で1月に行いました。全校から希望者を募ったところ、独奏や重奏など、8つの個人やチームが演奏してくれました。インフルエンザの蔓延が心配されましたが、幸い本校では罹患している人が少なく、計画通りに行うことができました。ちなみに職員の演奏も3ステージありました。隠し芸というわけではありませんが、写真にあるような、思いがけないシーンも見られ、大きな拍手がわき起こりました。

お知らせ

1月22日に、第2回東中学校部活動運営委員会が開催されました。会議では、すでに新聞などでも報道されている「中学生期の適正なスポーツ活動のあり方」の提言を受けて示された「長野県中学生期のスポーツ活動指針(素案)」についての意見交換も行われました。県教委より正式な指針が出される前ではありますが、「朝部活の廃止」「運動部活動の延長として行われている社会体育の部活動への一本化」などがうたわれており、現在の部活動と社会体育の見直しをするよい機会となりました。学校としても、よりよい部活動のあり方を求めて、今後も検討を続けていきます。

(文責 教頭 畑田 一心)